

「～トイッテモ」「～カラトイッテ」について

A Study of “- toitemo”Construction and “- karatoitte”Construction

陳 新 妍
CHEN XIN YAN

1. はじめに

本稿では、発話動詞「言う」の条件形が文法化したものと見られる「トイッテモ」「カラトイッテ」を取り上げ、それぞれの用法を記述し、その上で、機能の異同について論じる。

2. 先行研究

両者を取り扱うものには、主に、小金丸（1990）と藤田（2000）がある。以下、節を分けて取り上げよう。

2.1 小金丸（1990）

小金丸（1990）は、「といっても」と「からといって」の異同について、主に、文末の肯否や機能の面から述べている。

まず、文末の肯否については、「といっても」は、文末の肯否に関する制限はない。それに対し、「からといって」の場合は、文末に、肯否の制限があり、肯定や単純な否定の形にならず、〔動詞の肯定の言い切りの形、名詞等＋「わけではない」「とは限らない」「ことはない」等〕といった形になる¹。

次に、機能について述べられている。まず、「といっても」の場合、「Pといっても」という形だとしたら、ある事物についてPという語句を用いて表現したことについて、その事物がPという語句で十分適切には表現されていないこと（Pから想起される典型的なものではないこと、Pという語句で一括しきれないこと等）を示し、主節において、必要に応じて、より適切な記述を行う。それに対し、「からといって」の場合は、推論に対して、「〔推論の根拠²〕＋からといって、〔推論の帰結〕＋〔否定〕」という形で、否定する。否定される推論の根拠と帰結との関係は、〔原因・理由——結果〕という関係であることもあれば、〔事態——原因・理由〕という関係であることもある。従っ

¹ 「作家だからといってよく本を読むとは限らない」が言えるのに対し、「作家だからといって読書は嫌いだ。」「作家だからといってあまり本を読まない」は不自然である。「といっても」の場合は、すべて言える。

² 「から」との関連について、「から」の前に、理由や判断の根拠の両方が来るのに対し、「からといって」で取り上げられるのは、判断の根拠しかない。

で、「といっても」は、ある事物を表現するために用いた語句と、その事物の実際との不一致を示すことによって、結果的に相手の推論を否定する。「からといって」は、相手の推論の根拠を取り上げ、文末での推論の帰結の否定に結び付けることである、と述べている。

なお、両者が「わけではない」と共起する場合をとり上げ、それぞれの否定される推論の性質の違いも論じられている。「PといってもQ」「PからといってQ」だとしたら、PとQは、 $[P \rightarrow P]$ という語句で表される典型的な事態Q」という関係になる場合は、「といっても」は自然で、「からといって」は自然ではない³。それに対し、PとQは、 $[P \rightarrow P]$ の結果や原因である事態Q」といった関係にある時には、「からといって」の使用が自然であり、「といっても」は不自然である⁴。PとQが、 $[P \rightarrow P]$ という語句で表される典型的な事態Q」という関係であり、かつ、 $[P \rightarrow P]$ の結果や原因である事態Q」という関係でもある場合、両方とも使える⁵。

2.2 藤田 (2000)

藤田 (2000) は、「トイッテモ」「トイッテ」をめぐって、立ち入った考察を行っている。「トイッテモ」「トイッテ」については、まず、共通する基本的な関係構成のあり方、次いで、用法の微妙な相違を述べ、さらに、「トイッテモ」に関しては、メタ表現的にコトバをとり上げて云々する用法も示している。

まず、「トイッテモ」「トイッテ」の共通する関係構成のあり方については、「ある事柄をとり上げる前句を形成し、その事柄からそれを根拠として、出てくるであろう推論を見越して、それを否認する後件句を導く助辞的形式なのである」とあり、ひと言でいえば「推論の否認の形式」ということになる。

さらに、「トイッテモ」の場合、「前件の節に一つの事柄をとり上げて、後件の事柄と対比する」といった言い方であり、論理よりも、事実・出来事の対比に重点のある言い方であり、「カラトイッテ」は、「原因—結果の関係に殊更光をあてる言い方であり、そうした命題相互の論理関係を云々することに重点がある形式である」と述べている。

また、「トイッテモ」については、メタ言語的用法を、「言葉を取り上げて、それが文字どおりに、あるいは典型的に読まれ、理解されることを否認する」というように指摘している。

2.3 問題意識

まず、小金丸 (1990) から見ていく。文末の肯否について、氏は、肯否の制限があり、後件は、肯定や単純な否定の形にならず、〔動詞の肯定の言い切りの形、名詞等+「わけではない」「とは

³ 「わたしの方法があるといっても、それほど独創的なものがあるわけではない」「財布を取られたといっても、全財産取られたわけではない」の「といっても」は、「からといって」に置き換えられると、不自然になる。

⁴ 「有名な俳優だからといって裁判所が手心を加えたわけではない」「赤い服を着ているからといって赤が好きなのではない」の「からといって」は、「といっても」では不自然になる。

⁵ 「道路工事作業員といっても（からといって）ツルハシを握るわけではない」「簡単な試験だといっても（からといって）、全員が通るわけではない」のような例が挙げられている。

限らない」「ことはない」等] といった形になると述べている。だが、筆者の集めたデータには、以下のようなものもたくさんあった。

- (1) あの時、子どもの訴えだからといって退けず、父は私の心を尊重してくれた。(朝日 2010.11.06)
- (2) 職員だからといって優遇せず、一般債権と同じように取り立てて欲しい。(朝日2010.09.17)
- (3) 和音のバランスが一番難しい。アマチュアだからといって、練習に妥協はしない。(朝日 2010.08.08)
- (4) 「だけど、おめえ、いったん別れた女だろう。その女が他の男といたからといって、おめえにナイフをふりまわす権利があるのか」(冬の旅)
- (5) 常識では考えられない対応だ。不祥事が起きた場合、情報をオープンにしない限り、検証のしようがない。罪名を明らかにしたからといって、被告の特定につながらないことぐらい普通の市民は理解できる。(朝日2011.05.15)
- (6) 政権交代したからといって民主党に変わるのは極端すぎる。(朝日2010.07.03)
- (7) 「(前略) 不況に大きく左右される業界ではないとはいえ、消費不振のなか、老舗だからといって、進歩のないまま同じ菓子ばかりを出しては、必ず衰退してしまう。」(朝日2010.06.13)

要するに、「からといって」の後ろが「動詞の肯定の言い切りの形、名詞等+「わけではない」「とは限らない」「ことはない」等] といった形になると述べるだけでは、不十分なのである。(1) (2) のように、後ろが「～せずに、～する (した)」の形であったり、(3) のように、否定形で終わったり、(4) のように、後ろが疑問形であったり、(5) (6) (7) のように、後ろが肯定形で終わったりすることも少なくはない。つまり、後ろに、肯定形や動詞の否定形や、疑問形も来る。意志・希求・働きかけ・評価・判断・推量などのモーダルな意味を持っていれば、こうした形も許されるのではないかと思われる。注1で挙げている「作家だからといってあまり本を読まない」が不自然なのは、「あまり本を読まない」は、ただの記述に過ぎず、意志・希求・働きかけ・評価・判断・推量などのモーダルな意味を持たないからなのではないか。

また、機能については、「といっても」は、ある事物を表現するために用いた語句と、その事物の実際との不一致を示すことによって、結果的に相手の推論を否定すると述べられているが、反例を挙げよう。

- (8) 「若いといっても、仁木議員は衆院議員。(略)」(朝日2010.12.17)
- (9) 坂野氏は「新顔といっても又市議員の息子」と危機感を強め、又市氏は「平村氏の地盤を引き継ぐ候補」として同氏の支持者に切り込みをはかる。(朝日2010.12.26)

(8) (9) の「といッても」の機能は、「ある事物を表現するために用いた語句と、その事物の実際との不一致を示す」とは考えられないだろう。氏の指摘している用法以外にも、ほかの用法があると言える。

続いて、「からといッて」の機能について述べられている中で、「推論に対して、『[推論の根拠] + からといッて、[推論の帰結] + [否定]』という形で、否定する。否定される推論の根拠と帰結との関係は、[原因・理由——結果] という関係であることもあれば、[事態——原因・理由] という関係であることもある」とある。こう述べている一方で、注2に書かれているように、「から」とは違って、前に「原因・理由」が来ないといった記述もあり、矛盾している。また、筆者のデータの中で、(10) (11) ように、「～からといッて、～するのはいかが（～すべきではない、～してほしい）等」の形を取るものが多くあったが、否定される推論の根拠と帰結との関係は、[原因・理由——結果] と [事態——原因・理由] のいずれでもないと思われる。

(10) 街のなかのホテルだからといッて、ケチをつけるのは少し身勝手すぎる。

(11) 「病人だからといッて、社会や市場から排除するのはやめて欲しい」という桜井さんたちに、私たちは「翼」をつけられるだろうか。(朝日2010.07.26)

続いて、藤田(2000)について論じよう。氏は、「トイッテモ」「トイッテ」に共通する関係構成について、「ある事柄をとり上げる前句を形成し、その事柄からそれを根拠として、出てくるであろう推論を見越して、それを否認する後件句を導く助辞的形式なのである」と述べている。この指摘は、適切であると思われる。一方、両者の相違点については、指摘に留まっているだけで、論証されていない。また、両者の用法の詳しい考察もなされていない。

3. 考察

考察の前に、データ及び考察方法などを示しておきたい。データの内訳は、表1を参照されたい。

表1

	書籍（文庫本小説・論説本）	朝日新聞	総数
トイッテモ	444	250	694
カラトイッテ	226	224	450

本稿では、実例に基づいて、3. 1節「トイッテモ」、3. 2節「カラトイッテ」、3. 3節両者の異同、という構成で詳しく記述していく。

3.1 「トイッテモ」について

用法分類を行った結果、大きく分けて以下の二つのタイプがある。

I、PからQを導くことを否認して、Q´を導入するもの

II、Pに注目するだけでは不十分として、P´を導入するもの

では、節を分け、各用法について、用例を示しながら、見ていこう。

3.1.1 PからQを導くことを否認して、Q´を導入するもの

これは、さらに、「メタ言語レベルの否定」と「推論の帰結の否定」の二つに分かれている。

まず、「メタ言語レベルの否定」から見ていこう。(12)～(15)がこれにあたる。

(12) 夕刻になって、亡骸を収めた棺は車に載せられ、それを人が引いて村はずれの火葬場に向かった。空は夕映に照り返り、燃え上る焰は雲を焦がした。身に沁みる木枯の吹き過ぎる野中の石ころ道を、車はごろごろと引かれて行った。車といっても、不断は野菜などを運搬する大八車なのだ。その上に棺を載せてゆっくりと引いて行くのだ。(草の花)

(13) 私は爺さんの手を握ってふりました。

爺さんはすっかり太った私の体をなでました。

それから二人で話をしました。話といっても、ここではすべて手真似とビルマ語の単語なのですが、それが大分上達して、けっこう意味が通じるようになっていました。(ビルマの豎琴)

(14) 農業といっても、形態は多種多様。(朝日2010.09.28)

(15) そういえば、『北米遊説記』の鶴見裕輔は、アメリカと日本との関係だけに焦点をしぼりすぎていて、太平洋沿岸に住む他の諸民族をほとんど視界に入れていない。その点では少年小説家高垣陣の方がはるかに予見力に富んでおり、それに反白人主義といっても、すべてのアメリカ人を敵に回しているわけではない。(日本文芸鑑賞事典)

(12) (13) は、先行文では「車」「話」と表現している。その表現から、読み手が、「自動車」「おしゃべり」を導くことを否認しようとして、「野菜などを運搬する大八車」「すべて手真似とビルマの単語」と導入している。つまり、Pと表現したが、そこから、Q=Pの文字通りの語彙的な意味・概念・イメージ・典型=を導くことを否認し、Q´を導入している、ということである。実例を見ると、(12) (13) のように、「Pといっても、Q´」の形であり、つまり、「Qではない」が文章中に明示されないことが多い。

また、(14) は、同じ「農業」だから、形態なども同じであろうと導くことを否認して、「形態は多種多様」と導入している。(15) は、「反白人主義」から、すべてのアメリカ人が敵であろうと導くことを、「すべてのアメリカ人を敵に回しているわけではない」と否定している。つまり、Pでは一括できず、Q'では、実際にはいろいろあるか、例外があることを示したり、あるいは、Pではあるが、Q'では、Pの実質を伴わないか、それほどではないか、すべてがPではないことを表している。(12) (13) に対して、(14) (15) では、「Pといっても、Qではなく、Q'」というように、「Qではない」ことが明示されていることが多い。

二つ目のタイプとして、「推論の結論の否定」用法がある。「メタ言語レベルの否定」との違いを二点指摘しておきたい。「メタ言語レベルの否定」用法の場合は、Pが言語レベルであり、かつ、PとQとの間に、推論が介入していない。それに対し、「推論の結論の否定」用法の場合は、Pが事柄レベルであり、また、Pから推論を介入してQが導かれるのである。ここから、「推論の結論の否定」用法を見ていくが、Qが「概言的」か「当為的」であるかによって、二つに分けることができる。まず、Qが概言的であるものから見よう。

(16) 国際劇場に出入りしていたといっても、遊びではない。(風に吹かれて)

(17) 「四年もブランクがあつて、もう一回やってみようと思ったのはなぜ？」

「そう、三十になる前になんとかしようと思ったんですね。水商売の世界にいるのは簡単だけど、いつかボクシングというものを心おきなくできるチャンスがあれば、一度やっておきたかったんです。四年半やらなかったといっても、ボクシングが嫌いになったわけじゃないから」(一瞬の夏)

(18) 大阪支店長が交代するといっても大阪支社というのは手伝いの女の子が一人と支社長一人という程度の規模なので、それによって何かが大きく変化する、という訳でもなかった。(新橋烏森口青春篇)

(16) は、「国際劇場に出入りしていた」ことから、「遊びに行っただろう」、(17) は、「四年半やらなかった」ことから、「ボクシングが嫌いになっただろう」、(18) は、「支店長が代る」ことから、「大きく変化するだろう」というように、Pから、その目的・原因・結果などがQであろうと推論することを否定している。「Pといっても、Qというわけではない。Q'」というように、「Qではない」が明示されるものが多い。

続いて、Qが当為的であるものを見てみる。まず、例を挙げよう。

(19) 「妙なこと言わないで。母と娘の間柄といっても、このてのことは気恥ずかしいでしょう。厭だわ。下にもだって」(恋歌ふたび)

(20) 蚊は例年9月以降、数が減少する傾向がある。しかし今夏は一時的に数が減ったため、蚊の産卵が9月以降に例年通りに戻ると、数が増えたように感じるはずだという。

ヤブ蚊と呼ばれるヒトスジシマカとアカイエカは11月ごろまで生息するといい、白井良和・同研究所長(42)は「秋といっても油断大敵です」と話している。(朝日2010.09.14)

(21) 「清水は近いといっても、一泊ぐらいはしたいので、そのとき小柳さん」(不信のとき)

(22) 国会議員は選挙で有権者によって選出されたといっても首相経験者が一兵卒として議員にとどまっていることに私は違和感を覚える。(朝日2010.10.05)

(23) バンクーバー五輪の団体追い抜きで銀メダルを獲得したが、3000メートルは6位。世界との差も痛感した。「メダリストといっても、個人種目で取らないと」。(朝日2010.11.01)

(19) は、「母と娘の間柄」だから、「何でもしてもらってもいい」と思われることを否認し、「このてのことは気恥ずかしいでしょう」と続く。(20) は、「秋」だから、「油断してもいい」と導くことを否認し、「油断大敵です」という主張を導入している。(21) は、「清水は近い」から、「日帰りすべきである」と思われるだろうが、「一泊したい」というように、願望を導入する。(22) は、「有権者に選出された」のだから、「議員にとどまってい」を導くことを否認し、「私は違和感を覚える」と自らの意見を導入している。(23) は、「メダリスト」なのだから、「甘んじていい」を導くことを否認し、「個人種目で取らないと」と意志表明をしている。要するに、Pを理由に、Q = 「～すべき」「～していい」など＝を推論することを導くことを否認して、Q'を導入している。ただ、こうしたものの場合、実例を見てみると、「Pといっても、Q'」というように、QとQ'に対する否定が文中に現れないものがほとんどである。また、Q'が、願望や、主張、意志表明などを表すことが多い。

以上で、「PからQを導くことを否認して、Q'を導入するもの」について見てきた。次に、「Pに注目するだけでは不十分として、P'を導入するもの」を見てみよう。

3.1.2 Pに注目するだけでは不十分として、P'を導入するもの

ここで見るものを二つに分け、それぞれについて論じていこう。

まずは、「Pに注目するだけでは不十分として、Pより、P'のほうがもっと重要であると評価している」ものである。以下のようなものがこれにあたる。

(24) 三村は慣れてきたといってもアルバイトだ。(共犯者)

(25) 「若いといっても、仁木議員は衆院議員。(略)」(朝日2010.12.17)

(26) 「交代」といっても、従来の松は地元神社のご神木。(朝日2010.10.15)

(27) しかし、校門付近といっても、「敷地外」のため、禁煙を強制することはできないという。(朝

日2010.10.24)

- (28) 坂野氏は「新顔といっても又市議員の息子」と危機感を強め、又市氏は「平村氏の地盤を引き継ぐ候補」として同氏の支持者に切り込みをはかる。(朝日2010.12.26)
- (29) 二人は貴族といっても、田舎者である。田舎者らしく、都住いの庄九郎に対し不必要なほどに気がねをしていた。(国盗り物語)
- (30) もっとも塾の方は住込みの書生が掃除をするが、時々はぎんも手伝う。塾一番の才媛といっても、女であれば仕方のない勤めであった。(花埋み)

上の諸例は、これまでのものとは違う。(24)を例に説明すると、「慣れてきた」ことから、その人の立場をすぐ何々だと結び付けることを否認して、その訂正として「アルバイト」だと導入するのでもない。また、「慣れてきた」ことから、その原因・理由・目的・契機などが「アルバイトではない」と推論することを否認し、実は「アルバイト」であると導入するのでもないだろう。要するに、これまでの「Pから、Qを導くことを否認して、Qの訂正としてQ'を導入する」のではなく、むしろ、人やもの、事柄を考えると、Pという特徴や側面に注目するだけでは不十分として、P'を導入し、Pより、P'のほうがより重要であるというように、話者の評価が関わると思われる。具体的には、(24)の場合、「三村は慣れてきた」ことを優先に考え、大事な仕事を任せたいということに対し、「三村は慣れてきた」というところだけに注目しては不十分として、いくら慣れていても、本質は「アルバイト」であるということを示している。(25)は、仁木議員が呼び捨てされていることを聞いて、「若い」ことは確かに事実であるが、国会の場合なので、「衆院議員」という身分をより考慮されるべきであると示している。要するに、Pは、表面に現れているような側面や特徴、事柄であるため、認識されやすいが、Pにだけとらわれ、人やもの、事柄を決めるのはよくないとして、そうしたPより、それと対比して、より重要なP'を導入しているのである。

ほかに、次のように、「P'で、Pに対する疑問や異議を指摘する」ものもある。

- (31) 政治をうまく機能させるには、民意をどれだけ集められるかがカギ。だからこそ国のリーダーを民意で直接選ぶことが必要なのです。そのうえで4年なら4年、民意を預けて政治をしてもらう。僕だって知事として4年の任期があるから仕事ができる。衆参の選挙や党の代表選があるごとに、首相の首をすげかえるような政治ではダメですよ。
- 首相を直接選ぶといっても、天皇制があるので大統領制は日本の国柄として無理。日本の国体に合うのは首相公選制でしょう。それほど難しくないと思うのです。候補者を国会議員に限り、憲法改正でだけ認められている国民投票法を参考に法律化すればいい。(朝日2011.01.01)

- (32) 既存住宅については設置するまでに猶予期間が設けられ、各市町村の条例で定められている。
義務化といっても、検査や罰則はない。全国で住宅火災による死者は7年連続で千人を超える。(朝日2010.10.16)
- (33) 菅直人首相が雇用問題を重視する姿勢をみせている。医療や介護、環境分野で新規雇用を創出しているが、そのための具体的な道筋が十分に示されているとはいえないように思う。
介護といっても、低賃金で不安定な待遇では人が集まらない。環境ビジネスにしても、漠然としていてどんな仕事が想定されているのかはつきりしない。より具体的なプランを国民に示してほしい。(朝日2010.09.12)
- (34) 「小さくていいから、二人で店を持ちたいよ。もし店を開いたら、宇野に最初のラーメンをたべてもらうか」(中略)
「しかしなあ、店を持つといっても、金がなくちゃ、どうにもならんな」
安がしばらくして言った。(冬の旅)
- (35) 「仕方ないだろう」
「自分のかわりを見つけてからひまをもらうと言っていましたけど」
「かわりといっても、すぐには見つからんだろう」
「山形から連れてくると言っていました」(冬の旅)

(31) は、先行文では、「国のリーダーを直接に選ぶ」ことが必要であると述べた後に、必要性だけを認識しては不十分として、「天皇制がある」ことを導入し、問題もあることを指摘している。ひいては、「大統領制は日本の国柄として無理」と続く。(32) は、「義務化」することに注目するだけでは不十分として、一方、やり方の問題として、「検査や罰則はない」ことを指摘している。(33) は、「介護分野で新規雇用を創出する」といった目標を掲げているだけに留まるのでは不十分として、「具体策として、低賃金の問題を解決するなどの必要がある」ことを導入している。(34) (35) は、「店を持ちたい」「かわりを見つけない」というように、やろうとする意志さえ持っていればできると認識するに留まっていれば不十分として、「金がなくてはできない」「すぐにはできない」を導入し、困難も認識されなければならないと表している。

3.1.3 まとめ

以上で、「といっても」の用法をまとめて示すと、以下のようになる。

I、「PからQを導くことを否認して、Q'を導入するもの」

I-1 メタ言語レベルの否認

I-2 推論の結論の否認——Qが概言的であるものとQが当為的であるもの

Ⅱ、「Pに注目するだけでは不十分として、P'を導入するもの」

Ⅱ-1 PよりP'が重要であると評価しているもの

Ⅱ-2 P'で、Pに対する疑問や異議を指摘する

Iは、I-1は、表現と現実とのくいちがい、I-2は、推論の結論と現実とのくいちがいを表現している。

Ⅱは、Ⅱ-2は、リアルに存在する特徴、側面、要因の中で〈原因〉〈判断の根拠〉などとして働くと思われるもの（いわゆるP）の働きを相殺するもの（いわゆるP'）を持ち出す用法である。Ⅱ-2は、認識されていない阻害する要因ややり方の問題を持ち出し、目標、願望などのくいちがいを表す。

Iの場合は、I-1は、Pが言語レベルである。I-2は、Pが事柄レベルである。また、「Qが概言的であるもの」は、PとQとの間に、論理関係あるいは、一般知識、通念に基づく推論が関与している。「Qが当為的であるもの」の場合は、普通なら、Pを理由にQという当為判断を下されるという通念に基づく推論が関与している。実例を見た限りでは、「Qが概言的であるもの」の場合は、QとQに対する否定が文脈として現れることが多い。それに対し、「Qが当為的であるもの」の場合は、QとQに対する否定が文中に明示されないのがほとんどである。

次に、Ⅱの場合は、Ⅱ-1は、PとP'が対立している状況や事柄である。「いくら～といっても」に置き換えられることがある。Ⅱ-2は、P'がPに対する疑問や異議を述べている。

3.2 「からといって」

ここからは、「からといって」について考察する。「からといって」は、「PからQを導くことの妥当性を否定する」ものであり、つまり、推論の結論だけでなく、推論自体の妥当性をも否定する。用法は、主に「Qが概言的であるもの」と「Qが当為的であるもの」の二つに分けられる。以下、分けて記述する。

3.2.1 Qが概言的であるものの場合

まず、用例から挙げたい。

(36) しかし、「不登校の原因は様々。学校が合う子もいれば合わない子もいる。新たに学校をつくったからといって、すぐに解決するわけではない。」（朝日2010.12.26）

(37) だが、そもそも「法人税を引き下げれば投資が増える」とは言い切れない。

自動車や電機などの日本企業は円高などで輸出の採算が悪化し、人件費が安い新興国に生産設備を移している。法人税が下がったからといって、そのまま国内投資の拡大につながる保証はない。（朝日2010.12.17）

(38) 検察庁のトップとして、総長が責任を取って辞職をする必要はある。しかし、総長が辞職

したからといって、検察への信頼が直ちに回復するとは思えない。(朝日2010.17)

- (39) また、剣道は技を一つ習得したからといって、すぐに勝てるわけではない。この技があれば絶対に勝てるという技もない。(朝日2010.10.31)
- (40) 絵本をたくさん読んだからといって文法や語彙力を身に付けられるわけではありません。しかし、一枚一枚丁寧に描かれた絵は見る人の想像力をかき立て、強烈な印象を残します。
- (41) 薬は処方箋通りに飲まなければ効かないが、レシピ通りに作ったからといっておいしい料理ができる保証はまったくない。(朝日2010.09.11)
- (42) しかし立派なテーマを考えたからといって、いいエッセイができる保証はない。(名文を書かない文章講座)

上の例は、「新たに学校をつくる」「法人税が下がる」「総長が辞職する」「技を一つ習得する」「絵本をたくさん読む」「レシピ通りに作る」「立派なテーマを考える」ことを事実として認めておいて、それだけを根拠に、「すぐに解決する」「そのまま国内投資の拡大につながる」「検察への信頼が直ちに回復する」「すぐに勝てる」「おいしい料理ができる」「いいエッセイができる」と推論してしまうことを否定している。個別事態であれ、一般論であれ、Pを事実として認めておいて、そのPだけを根拠に、Qと結論づけるのは短絡的であり、妥当ではないと述べている。Pさえ現実になっていれば、そのPの直接的で必然的な結果としてのQにつながると推論してしまうことを否定する。PとQとQに対する否定のいずれも文中に明示されなければならない。(36) (37) (38) (39) のように、「すぐに」「そのまま」「ただちに」などの副詞が、PとQとの間の直接的で必然的因果関係を示している。また、Qに対する否定は、「Qというわけではない」「Qになる保証はない」「Qとは言えない」のような形になる。

上は、QがPによって引き起こされる結果であるものについて見たが、なお、以下のようなものもある。

- (43) 「そうか。だが・・・、自動車が駐車場になかったからといって、それが直ぐに、左近次が部屋にいなかったことを証拠立てることにはならないと思うが・・・。穂積、その辺はどうなんだね？」(罅われた湖)
- (44) 言いかえれば、看板に書かれた診療科目が多いからといって、その医師の能力が高いとは必ずしも言えない。看板はあてにはならないのです。(生きかた上手)
- (45) 外交公電は一級の史料となりうるが、公電に書かれているからといって、必ずしも事実とは限らない。(朝日2010.12.17)

- (43) は、「自動車が駐車場になかった」だけを根拠に、「部屋にいなかった」と結論付けること

を否定している。(44)は、「診療科目が多い」ことから、「能力が高い」と結び付けがちであるが、必ずそうとは言えない。(45)は「公電」なら、「事実」だろうが、そうとは限らない。つまり、「Pだけから、Qということになる、あるいはQということがいえる」と推論することを否定している。(36)～(42)とは違って、Qが、Pに引き起こされた結果ではなく、Pが何を意味しているのか、Pから何が分かるのか、についての推論、あるいは思考である。

3.2.2 Qが当為的であるものの場合

例から挙げよう。

- (46) 大学の研究にも「成果主義」が求められる風潮には、「有機合成部門では試薬の量を減らすなど工夫して研究費の不足を克服できる面もあるから、一概には言えない。しかし一生懸命にやっても成果が上がらないからといって研究費を削るのは好ましくない。様々な研究領域を正しく評価するシステムが大学には必要だ」と注文をつけた。(朝日2010.10.08)
- (47) 起訴議決を受けて党内には、小沢氏から距離を置く議員を中心に小沢氏の処分を求める声も広がっている。だが、長崎県連の渡辺敏勝幹事長は「起訴されたからといって犯人扱いするのはおかしい。裁判で有罪になった時に進退や処分を考えればいい」と指摘。(朝日2010.10.05)
- (48) 自分たちの国にイヌやクジラを食べない文化がないからといって、そうした文化のある国を野蛮国扱いするのはおこがましいかぎりであり、そんな権利は誰にもありません。(鳥羽水族館館長のジョーク箱)
- (49) 「悪い法人があるからといって、良い法人までが原則課税とはとんでもない」(朝日2010.12.22)
- (50) これまで長い期間ずっと続けてきたものを、後継者がいないからといって断絶させてしまっていていいのだろうか。(朝日2010.12.19)
- (51) 「だけど、おめえ、いったん別れた女だろう。その女が他の男といたからといって、おめえにナイフをふりまわす権利があるのか」(冬の旅)
- (52) 公明党幹部は「(検察審による強制起訴は)『疑いの余地がない』嫌疑がある場合の検察の起訴とは性質が違う。起訴だからといって直ちに辞職を求めるというのは、もっと慎重に考えなければいけない」と解説。(朝日2010.10.05)
- (53) 手持ちの現金がたくさんあるからといって、決して一度に全額を投資してはいけません。(朝日2010.09.04)
- (54) 「病人だからといって、社会や市場から排除するのはやめて欲しい」という桜井さんたちに、私たちは「翼」をつけられるだろうか。(朝日2010.07.26)
- (55) 行政は財政が厳しいからといってサービス提供を安易に切りつめるべきではない。(朝日

2010.12.18)

- (56) 鶴田町の森英之さん (29) は「家族だからといって事件の重大さに差をつけてはいけないというのが念頭にあった。極力、感情移入は避けた」と話した。(朝日2010.12.10)
- (57) (略) 作家の三田誠広氏が「図書館に公共性があるからといってタダで電子書籍を流通させてよいことにはならない」と指摘。(朝日2010.12.07)
- (58) 売り上げが下がったからといって、簡単に首を切るわけにはいかないんだ。(朝日2010.12.07)
- (59) 参院選情勢が厳しいからといって、増税への意思をあいまいにすれば国際社会で失望を買い、「例外」扱いを卒業する展望も失われる。(朝日2010.06.30)
- (60) 田舎の小さな会社だからといって躊躇していたら置いてけぼりになる。(朝日2010.11.27)
- (61) 不況に大きく左右される業界ではないとはいえ、消費不振のなか、老舗だからといって、進歩のないまま同じ菓子ばかりを出しては、必ず衰退してしまう。(朝日2010.06.13)

上の諸例は、Pという事実を理由に、Q＝～すべき、～してもいい＝を導くことの妥当性を否定していることに共通している。(46)～(48)は、Qに対し、「好ましくない」「おかしい」「おこがましい」「とんでもない」と評価している。(49) (50)は、Qに対し、疑問を投げかけている。(51)～(58)は、Qに対し、「してはいけない」「やめてほしい」「すべきではない」「するわけにはいけない」のように、当為判断をしている。また、(59)～(61)は、「Qしてしまつては、どうなってしまうか」を表している。いずれも、Pだけを理由に、Qを導いたことの妥当性について、評価・価値判断をしていることが言える。

なお、次の(62) (63)のように、「Pが事柄で、Qがそれによって方向づけられている心理活動・感情である」場合や、(64) (65)のように、「Pが心理活動・感情で、Qがそれによって方向づけられている行動である」場合もある。

- (62) APECまであと20日余り。鳩山氏は21日、首相にこうぐぎを刺した。「APECだからといって焦ってはいけない。逆に失敗する。消費税もそうだったけれど」(朝日2010.10.22)
- (63) 婚約時代から、まきこは士郎と関係があり、何度か一緒に旅行するにも出かけている。それが結婚して外国へ行ったからといって、さほど感激しないというもの、無理はない。(化粧)
- (64) 「そりゃ、わたしだつてくやしいよ。だが、くやしいからといって、ちいさなこぶしを振りあげてみたところでどうするのだ。こいつは握りこぶしぐらいで、かたのつく問題じゃないからね。(略)」(路傍の石)
- (65) 国が秘密にしている事実だと知っていて外部に出せば、罪にあたるのではないか」。檢察幹

部の一人も「国の方針がおかしいと思うからといって国家公務員にこんな告発を許したらめっちゃくちゃになる」と強調する。(朝日2010.11.11)

例を見ればわかるように、「Qが当為的であるもの」の場合でも、PとQ、Qに対する否定（あるいは評価、価値判断）の三つのいずれも文中に明示する必要がある。

3.2.3 まとめ

以上で、「カラトイッテ」の用法分類を見てきたが、「カラトイッテ」は、Pを理由に、Qを導くことの妥当性を否定している表現であり、「Qが概言的である」か、「Qが当為的である」かによって二つのグループに分かれている。また、「カラトイッテ」は、推論の結論のみを否定するのではなく、推論自体の妥当性をも否定しているため、PとQ、Qに対する否定の三つとも明示されなければならない。

3.3 「トイッテモ」「カラトイッテ」の比較

これまで、「トイッテモ」「カラトイッテ」のそれぞれについて、用法のバリエーションを示してきた。ここでは、両者の異同について論じる。まず、それぞれの用法分類を再掲する。

「トイッテモ」

「PからQを導くことを否認して、Q⁺を導入するもの」

メタ言語レベルの否認

推論の結論の否認——Qが概言的であるものとQが当為的であるもの

「Pに注目するだけでは不十分として、P⁺を導入するもの」

PよりP⁺が重要であると評価しているもの

P⁺で、Pに対する疑問や異議を指摘する

「カラトイッテ」 推論自体の妥当性を否定する

「PからQを導くことの妥当性を否定し、Qが概言的であるもの」

「PからQを導くことの妥当性を否定し、Qが当為的であるもの」

「トイッテモ」の「メタ言語レベルの否認」用法や「PよりP⁺が重要であると評価している」用法、「P⁺で、Pに対する疑問や異議を指摘する」用法の場合は、「カラトイッテ」ではできない。

一方、「トイッテモ」の「推論の結論の否認」用法は、「カラトイッテ」の用法と共通しているところがある。その共通点を言えば、「PからQを導くことに対して否定的な態度をとる」点と「Pを事実として認めている点」において同じである。そうした共通点によって、置き換えることが許容されることがある。

まず、「Qが概言的であるもの」で、置き換えられる例を挙げよう。

- (66) 「そうか。だが・・・、自動車が駐車場になかったからといって、それが直ぐに、左近次が部屋にいなかったことを証拠立てることにはならないと思うが・・・。穂積、その辺はどうなんだね？」(罅われた湖－雨宮史朗最後の敗北)
- (67) 言いかえれば、看板に書かれた診療科目が多いからといって、その医師の能力が高いとは必ずしも言えない。(生きかた上手)
- (68) 外交公電は一級の史料となりうるが、公電に書かれているからといって、必ずしも事実とは限らない。(朝日2010.12.17)
- (69) ところが技術的にできるからといって、それをつくれば市場で受け入れられるかというところではない。(グッドキャリア)
- (70) 大阪支店長が交代するといっても大阪支社というのは手伝いの女の子が一人と支社長一人という程度の規模なので、それによって何かが大きく変化する、という訳でもなかった。(新橋烏森口青春篇)

次に、「Qが当為的であるもの」の場合に、置き換えが可能な例を見てみよう。

- (71) 秋といっても油断してはいけない(作例)。
- (72) 行政は財政が厳しいからといってサービス提供を安易に切りつめるべきではない。(朝日2010.12.18)
- (73) 手持ちの現金がたくさんあるからといって、決して一度に全額を投資してはいけません。(朝日2010.09.04)
- (74) APECまであと20日余り。鳩山氏は21日、首相にこうくぎを刺した。「APEC だからといって焦ってはいけない。逆に失敗する。消費税もそうだったけれど」(朝日2010.10.22)

前述のような共通点があるからこそ、こうした置き換えが許されるのではないと思われる。ただ、両者には、違いも存在する。「トイッテモ」は、「PからQを導くことを否認して、Q'を導入する」のであり、Q'の導入が重要である。それに対し、「カラトイッテ」は、「推論自体の妥当性を否定する」のであり、基本的には、PとQ、Qに対する否定(評価や疑問、反語である場合もある)の三つがそろっている。こうした違いは、こういったところに現れるかを見てみよう。

次の二例の中の「トイッテモ」は、「カラトイッテ」に置き換えられない。

- (75) 国際劇場に出入りしていたといっても、遊びではない。(風に吹かれて)

(76) この子はミスなになににえらばれたといっても、いわゆる目鼻立ちのはっきりした美人ではない。(日本の名随筆)

上の二例は、「カラトイッテ」に置き換えられない。なぜなら、「カラトイッテ」は、推論自体の妥当性に対する否定であるために、単なる説明の否定を表す「のではない」(名詞を受ける場合、「ではない」の形になる)と共起しにくい。「トイッテモ」の場合は、「推論の結論の否認」ということなので、「わけではない」はもちろん、「のではない」とも容易に共起できる。

ただ、下の例のように、「市民は投票に行かない」ことと「政治に無関心である」との間に、明確で直接的な因果関係があり、かつ必然的と思われるような理由の説明なら、「カラトイッテ」と「のではない」が共起できる。

(77) ただ、市民は投票に行かないからといって、政治に無関心なのではない。(朝日2010.11.26)

(77) とは違って、上の(75)(76)は、明確で直接的な因果関係で結び付いていないので、「カラトイッテ」と「のではない」との共起が許されないと思われる。実際にも、「カラトイッテ」と「のではない」と共起する例が僅かである。その代りに、「～わけではない」「～という保証はない」と共起するものが多い。(75)の場合、「カラトイッテ」で作ろうとしたら、「国際劇場に出入りしていたからといって、必ずしも遊びなわけではない」のようなものが自然であろう。ただ、「国際劇場に出入りした」ことから、すぐに遊びだろうと結び付ける推論の妥当性を否定する文になるのではないかと思われる。

次に、「Qが当為的であるもの」の場合を見てみよう。次の二例のような「トイッテモ」も、「カラトイッテ」に置き換えられない。

(78) 清水は近いといっても、一泊ぐらいいはしたいので、そのとき小柳さん」(不信のとき)

(79) バンクーバー五輪の団体追い抜きで銀メダルを獲得したが、3000メートルは6位。世界との差も痛感した。「メダリストといっても、個人種目で取らないと」。(朝日2010.11.01)

(78)(79)は、Pから導かれるQが文脈に現れずに、しかも、Q'が単なる意志や決意の導入に過ぎない。こうした場合、「カラトイッテ」は使えない。

一方、次の「カラトイッテ」は、「トイッテモ」に置き換えられない。

(80) これまで長い期間ずっと続けてきたものを、後継者がいないからといって断絶させてしまっているのだろうか。(朝日2010.12.19)

- (81) その言いぐさはたぶん列強が日本を見る見かたと同じことなのだが、貴様はそいつを受け入れることができるのか？そもそも民族なり国家なりの優劣をどう決めるのだ？黒船を持たぬからといって、わが日本は野蛮国だろうか。(武揚伝)
- (82) 「そりゃ、わたしだってくやしいよ。だが、くやしいからといって、ちいさなこぶしを振りあげてみたところでどうするのだ。こいつは握りこぶしぐらいで、かたのつく問題じゃないからね。(略)」(路傍の石)
- (83) 田舎の小さな会社だからといって躊躇していたら置いてけぼりになる。(朝日2010.11.27)
- (84) それなのに、年収が同じだからといって税金も同じにすると、Aさん一家の暮らしはBさんと比べて苦しくなる。(朝日2010.12.17)
- (85) 婚約時代から、まきこは士郎と関係があり、何度か一緒に旅行するにも出かけている。それが結婚して外国へ行ったからといって、さほど感激しないというもの、無理はない。(化粧)

(80) ～ (82) は、「カラトイッテ」文の文末は、疑問形や反語の形になっている。さきに述べたように、「トイッテモ」にとって、Qの訂正としてのQ'の導入が重要である。従って、疑問形や反語の形とは共起しにくい。(83) (84) は、Pを理由に、Qを導くことの妥当性を、Qを実現してしまったら、どんな結果になってしまうかを示すことによって、否定している。Q'の導入がないため、「トイッテモ」が使えない。(85) は、「無理はない」で、推論の妥当性を否定している。ここも、Q'の導入が関係ないので、「トイッテモ」は使えないのである。

4. おわりに

以上で、「トイッテモ」「カラトイッテ」の用法について考察した。

両者の機能について、共通点とは、「前から後へ係る相関のあり方を表す」ということである。それぞれは、以下のようである。

「トイッテモ」

前を事実として認めたところで、それから導いたこと、あるいはそれしか考慮されないことに対する否定的な内容へと結び付ける。

「カラトイッテ」

前を事実として認めたところで、それを根拠に推論を行うことの妥当性を否定する内容へと結び付ける。

参考文献

- 森田・松木（1989）『日本語表現文型：用例中心・複合辞の意味と用法』アルク
- 小金丸春美（1990）「相手の推論を否定する形式をめぐって「～といっても」と「～からといって」」『梅花短大国語国文』3
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 藤田保幸（2000）『国語引用構文の研究』和泉書院
- 秋元実治（2001）『文法化——研究と課題——』英潮社
- P. J. ホッパー, E. C. トラウゴット（2003）『文法化』日野資成訳 九州大学出版会
- 前田直子（2009）『日本語の複文——条件文と原因・理由文の記述的研究——』くろしお出版